



九条ブログはらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 20

2007(平成19)年3月19日(月)発行

<57年前の1950(昭和25)年3月19日は、核兵器廃絶のストックホルム・アピールの日>
「戦争が起きるか起きないかは、我々に、我々が代表している数億の人々にかかっている。原子兵器の絶対禁止・それを最初に使用する政府を戦争犯罪人と見なす」と訴え、やがてこのアピールに5億の人々が署名し、原爆使用反対の世論が世界中に広まった。

映画『日本の青空』の入場券販売にご協力ください!

原町の販売目標は1,000枚、現在の販売済みは300枚、まだまだこれからです

毎回のお知らせで恐縮ですが、小高区出身の憲法学者鈴木安蔵が主人公で、日本国憲法の成立過程の真相を描いた劇映画『日本の青空』が完成し、いよいよ4月下旬、全国にさきがけて小高区と原町区で上映会が開催されることになりました。

上映会 <日本国憲法制定60周年記念行事>

主催:映画『日本の青空』上映南相馬実行委員会

共催:南相馬市・南相馬市民文化会館(ゆめはっと)=27日のみ共催

後援:南相馬市教育委員会

<入場券は、小高も原町も共通、大人も子供も一人1,000円です>

○4月21日(土)小高区 浮舟文化会館

①午前10:30~ ②1:30~ ③6:30~

○4月27日(金)原町区 南相馬市民文化会館

午後6:30~(1回だけの上映)

原町区の上映会(四月二十七日(金)午後4時頃から夜9時頃まで)の、会場受付などのお手伝いのできる方は、会事務局員にお申し出ください。



以前「製作協力券」を購入した方にも、上映日程をお知らせください!

この上映会を成功させるため、皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします。

- この上映会は「映画『日本の青空』上映南相馬実行委員会」(委員長若松丈太郎、副会長青田利幸・布川雄幸)の主催で、原町区と小高区の共同での開催です。「はらまち九条の会」はその一協賛組織です。
- 九条の会員だけでなく、ご家族にも、知人やお隣さん、特に若い人にもお薦めください。
- 以前購入の「製作協力券」でも入場できますが、たとえば「協力券」は全国どこでも有効なので、他都道府県の方にお譲りするなどして、できれば新たに「入場券」を購入していただきたいのですが...
- 相双地区の実在の偉人の本格的な映画は史上初めてです。地元とはいえ鈴木安蔵について全く知らない方も多く、地元への認識を深め誇りを持つ良い機会と思われれます。意外にふるさとの相双地区を離れ東京など遠くにお住まいの方は、関心が高いようです。
- 「入場券」は下記のお店などに販売をお願いしていますが、個人的に1枚でも2枚でも、5枚でも、販売にご協力できる方は九条の会事務局員にお申し出ください。

<前売券取扱所・敬称略> ※「入場券」は販売数が多くなるほど、当然利益も多くなります。

小高:小松屋旅館・広文堂書店小高店/小高九条の会会員

原町:南相馬市民文化会館(ゆめはっと)・平田小児科医院(錦町)・井上薬局(錦町)・おうち書店(三島町)・北洋舎クリーニング(南町)・文芸堂書店(桜井町・国見町)・れすとらんぱびよん(三島町)・花吹雪(北町)・国際交流協会・市民サポートセンター・南相馬市原町区観光協会など

○はらまち九条の会事務局員・山崎TEL22-8631・石田TEL22-4037・早坂TEL22-0326・番場TEL22-0715・岡田TEL23-1921・井上薬局TEL22-7511(原町区の入場券配布の集約・会計担当)・そのほか多数の方々に販売をお願いしています。



「日本の青空」

憲法学者鈴木安蔵が主人公の劇映画
去る3月17日、小高区で完成試写会開催

「分かりやすくすばらしい出来！」「何度も涙が流れた」

▼3月18日付『毎日新聞』県内版コピー

若い皆さんに はらまち九条の会会長 平田慶肇

映画『日本の青空』はある若い女性記者の目を通して、現在の「日本国憲法」が出来上がるまでの様子を描いたものです。テーマはかたいですが、地元出身の憲法学者鈴木安蔵さんの苦勞と活躍の様子が分かって、実に頼もしいかぎりです。若い皆さんにも是非見て欲しい、おすすめの映画です。

鈴木安蔵と憲法
出身地で試写会
南相馬
日本国憲法起草に大きな役割を果たした憲法学者、鈴木安蔵（1904〜83）を主人公にした映画『日本の青空』の完成披露試写会が17日、南相馬市小高区の浮舟文化会館で開かれた。鈴木の出身地の同区で特別開催された県内初の上映会で、映画『日本の青空』上映南相馬実行委員会の主催。招待客約220人が



大澤 豊監督作品
出演：高橋和也・藤谷美紀・田丸麻紀・穴戸開・加藤剛・水野久美・左時枝・岩本多代・山下洵一郎

2時間余にわたる映画に見入り、「憲法誕生秘話」を映像で見て感動したなどの声が聞かれた。上映に先立ち関係者が舞台上であいさつし、大澤豊監督は「特に若い人たちが憲法に関心を持つ役割を果たしてくれたらいい」と語った。

映画は鈴木が中心メンバーだった憲法研究会が発表した「憲法草案要綱」が現憲法の基礎となるまでを、現代の女性雑誌記者の取材を通して描かれている。06年11月には同区と相馬市でロケが行われた。今月24日に福島市の福島公会堂、4月21日に浮舟文化会館、同27日には南相馬市原町区の市民文化会館で有料公開される。



「日本の青空」完成披露試写会であいさつする大澤豊監督

○上映会場で、美しい映画パンフレットを販売します！一部600円。

試写会で映画をみて感じたこと・・・<上映実行委員からの一言>

○若い人に見てほしい！○映画として出来がいい○大澤監督はすごい！

○歴史で学んでいたことがそのまま映像で見られ、難しい憲法問題なのに分かりやすい○九条の成立過程以上に、男女平等規定がどのように生まれたかがよく分かった○憲法成立過程の膨大な情報をよくまとめたものだ○男女平等規定の根源がよく分かり、女性の立場からもよく理解できた○ドラマとしてもおもしろい○原町の映画館・朝日座支配人の布川雄幸さんはプロの映画人ですが、「映画として出来がいい。よくできている」と話しておられ、自信がもてて嬉しくなった○123分(約2時間)が全く長く感じられなかった○明治憲法を継承した松本蒸治の保守的な政府案は、GHQに一蹴されてしまいますが、しかし今でも幽霊のように生きていて、現在の政府はそれを復活させようとしているんですね○幣原喜重郎総理大臣が窓辺で、戦争も武力もいけない、とつぶやいた場面が印象的です○GHQ(占領軍)と松本案とのやりとりが印象的でした○憲法が60年も続いているのはすごいことです。人と人が話あって作っているんだなあと思いました○大澤豊監督は本当にすごいと思いました。とてもいい映画です○主権在民や男女平等など、現在では当たり前と思っていることがこうして定められたと理解してほしい○憲法九条を前面に押し出し主張している映画ではない○難しい憲法問題がテーマで、監督には失礼ですが面白くない映画ではないかと不安でした。でも人間ドラマになっていて大変中身の濃いすごい映画です○生前の鈴木安蔵を知っているご家族や教え子の方々は、何度も涙を流されました○相馬高校生が五日市憲法の劇中劇で登場しますが、堂々としていて良かった○終戦の日の青い空の場面は、小高神社のロケです○鈴木安蔵役の高橋和也は安蔵そっくりだそうです。妻の俊子役の藤谷美紀さんも美しい○加藤剛や穴戸開、水野久美、左時枝の脇役も光っています○地元小高区にこんなにすごい偉人がいても、知らなかったり、偏見で理解しようとしなないのは残念なこと○南相馬市やゆめはつとが共催、しかも南相馬市教育委員会が後援してくれて、本当に心強い！○最後に全国の映画協賛団体名がたくさん出てきて驚いた！

○「原点はすべて戦争体験から起こった大義への不信ですが、そこから組織の中で人間が生きること、特に組織の論理と人間の幸福とはどうなるのかということをテーマにして書いてきた」「戦争で得たものは憲法だけだ」(3月に亡くなった作家城山三郎さんのことば)

新刊本

かもがわ出版・1,470円

小池清彦・竹岡勝美・箕輪登著

『我、自衛隊を愛す 故に、憲法9条を守る』

まだ読んでもいないのに、タイトルに惹かれてここに書いてみました。9条が改悪されて最も強く影響を受けるのは自衛隊です。自衛隊員自身はどう考えているのでしょうか？